

持続的な食料システムを担う次世代リーダー育成事業

【現状・課題】

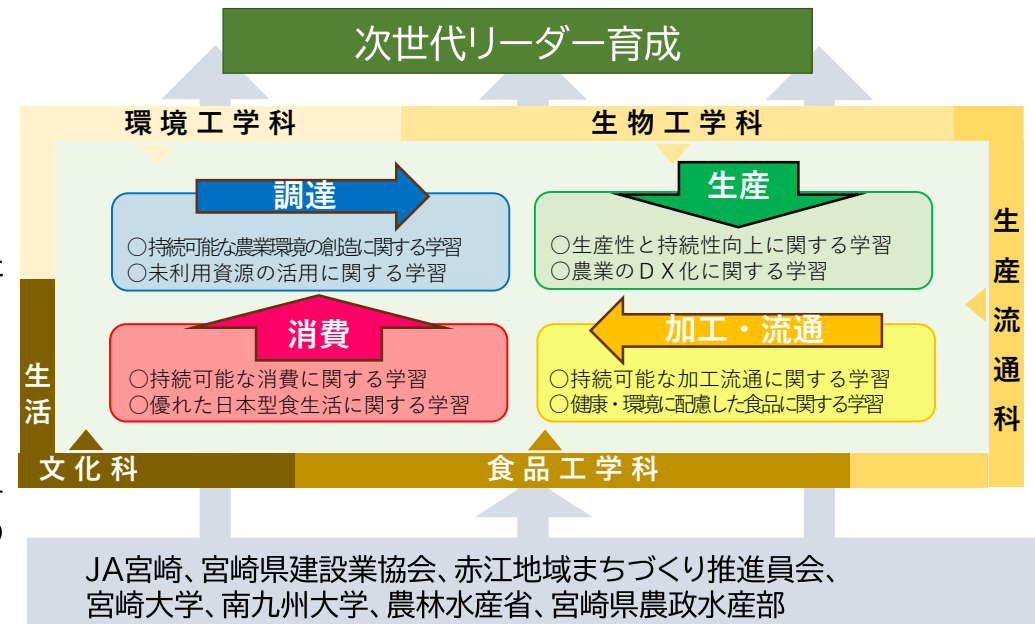
- 産学連携について、組織的な体制が構築されていないことから、一学校、一学科での取組に終始しており、取組の差が見られる。
- 産学連携の取組そのものが単発的で、必ずしも体系立てられたプログラムになっておらず、十分な教育効果につながっていない。また、連携についての効果検証ができておらず、発展的な取組につながっていない。
- 専門の学びを活かした進路を選択する生徒が相対的に少なく、産業界が求める人材育成や確保に 대응できていない。

【実施内容】 農業に関する学科として「生物工学科」「生産流通科」「食品工学科」「環境工学科」、家庭に関する学科として「生活文化科」を有する。

研究拠点校 宮崎県立宮崎農業高等学校

【主な取組内容】

- ▶ 農水省「みどりの食料システム戦略」に準じた学習プログラムの研究開発
 - * 調達→生産→加工・流通→消費に至る食料システムを基盤とした5学科横断型学習プログラム
 - * 「みやざきアグリプレーヤー」に必要とされる資質・能力の育成を目的に産業界と連携した授業、実習等を実施
- ▶ 海外の農業・食文化に関する学習や海外姉妹校との継続的な取組
- ▶ 県内農業系高等学校(8校)及び県農業大学校、県教育委員会との連携による成果の県内普及促進



【目的】

- ① 産業界と連携した教育プログラムを構築することで、産業界への理解を深めるとともに、絶え間ない変化や潮流を的確にとらえ、自ら課題を見つけられる人材を育成する。
- ② 学科間連携を深めることで、幅広い知識や技術を身に付け、諸課題を主体的に解決できる人材を育成する
- ③ グローバルに視点をおいた取組を実践することで、世界を視野に、地域で新たな価値を創造できる人材を育成する。

持続的な食料システムを担う次世代リーダー育成事業

<地域(ローカル)での学び>

1 最新・最先端技術研修

(1)「綾町有機農業視察研修」

綾町では減農薬や農薬を使わない栽培体系が確立されており、その総合的病虫害管理について視察を行った。具体的には、施設栽培のキュウリ農家における土着天敵のタバコカスミカメの使用、天敵専用ハウスによる増殖技術の取り組みを確認。天敵を活用した病虫害対策、自家配合の堆肥や有機質肥料による化学肥料の低減、太陽熱処理による除草対策などである。学校では見ることが出来ない自家配合の堆肥作りや大規模生産と流通・消費に関する研修を受け、見識を広めることができた。



2 全学科横断・協働型専門学習

(1)「令和6年度マイスターハイスクール普及促進事業人材育成講演会」

本校OBを幅広い年齢層や野菜栽培から草花栽培、学生、公務員などの講師を招いて、講演会を実施した。具体的には、バラやミニトマト、ゴーヤの農業従事者や本校卒の農業大学校生(畜産学科)などである。農業の魅力や農業経営、これからの目標、失敗したこと、大切にしていることについて、パネルディスカッション形式でおこない、現場の生の声を聞くことで様々な農業分野について理解を深め、職業観の向上を図ることができた。



(2)「SDGs講習会」

SDGsの地方創生カードを用いて、中山間地の町を想定し、様々な産業や学生、行政等の具体的な役割を担当して地域の活性化を目指していくシミュレーションゲームをおこなった。初めは自分の目標を達成することに集中していたが、社会全体を俯瞰して見ることを助言され、何を優先すべきかを話し合ってから、その目標を達成できるよう人材資源や経費を協力して集めるようになっていった。最後に、自分事として今日から具体的に取り組めることを考えた。SDGsの目指す社会の実現に向け、自分たちの行動を考える機会と広い視野と多くの観点を獲得することができた。



<成果と課題>

1 組織づくり・周知 → 「企業・小中学校・地域・実習連携部門」と「学科・教科・総合的な探究の時間横断的取組部門」の校内組織をつくり、マイスターハイスクール普及促進事業の内容について生徒・職員に周知した。

2 教科・学科横断型授業の実施回数 → 学科横断型の授業の実施回数は7回に増えた。具体例) 食品工学科が生産流通科の青果物の育成を学ぶ
環境工学科が生産流通科に農地測量を教える等

3 産業界等と連携した教育活動 → 令和6年度は人材育成に係わる企業が15社、人材数は19人であった。

4 生徒と職員のアンケート調査による実態把握と課題の分析

「専門性」、「人間性」、「進路」、「教科・学科間連携」、「郷土愛」の5分野について、グラデュエーション・ポリシーを基にして質問項目を作成し、実施した。分析結果より、教科間連携を強化したカリキュラムの整備、国際理解教育の充実、地域貢献意識を育むプログラムの導入等があげられた。これらの課題解決を目指し、学科横断型学習プログラムの構築や先進国視察、防災かまどベンチ製作などが遂行できるよう準備をしている。

持続的な食料システムを担う次世代リーダー育成事業

産業界

大学

行政機関

専門機関

関係団体

民間企業

宮崎大学・南九州大学・農水省九州農政局・県農政水産部・JAみやざき・宮崎県建設業協会・赤江地域まちづくり推進委員会 他

産学連携コーディネーター

- ・産業界等と学校のニーズを基にしたマッチング及び産業界等との調整
- ・連携先の新規開拓及び連携した取組の評価、検証、調整

カリキュラム
アドバイザー

- ・カリキュラムの適正化

事業運営委員会

- ・事業の意思決定、事業評価
- ・産業人材育成プログラムの検証
- ・産業界との適切な連携方策及び体制の在り方検討

県教育委員会

- ・事業運営委員会設置と委員委嘱
- ・事業推進、進捗管理
- ・産業界等との連携体制構築に向けた条件整備
- ・事業の域内普及、促進

連携協定
等の締結

推進委員会

- ・管理全般（進捗、カリキュラム、予算・会計等）
- ・海外の学びに関すること

実践推進部会

- ・取組の総括（進捗確認、校内の連絡調整）

連携取組部門

- ・産業界等と連携した取組
- ・地域と連携した取組

横断的取組部門

- ・全学科横断した取組

みどりの食料システム戦略を
基盤とした学習プログラム

- ▶ ローカルでの学び
 - ・最新・最先端技術研修
 - ・学科横断・協働型学習
- ▶ 海外での学び
 - ・海外の農業や食文化
 - ・国際交流

成果発信

産業界等との持続的な
連携体制の確立

県内高校への
普及・促進

宮崎農業高等学校